

耕畜連携によるエシカル農産物生産の取組

現状と課題

○堆肥

畜産…流通停滞、ニーズに合った品質

耕種…労力不足等による堆肥利用減少、農地の地力低下

○飼料

畜産…労力不足や基盤の制約で生産拡大に限界

耕種…県内事例がなく、生産のノウハウがない

○生産コスト

農産物への価格転嫁に対する消費者の理解醸成

目指す姿

地域内での資源循環型農業の促進、持続可能な農業経営の実現

→“堆肥”と“飼料”を通じた耕種農家と畜産農家の連携

県の取組

① 堆肥を通じた耕畜連携

良質堆肥

良質堆肥生産態勢の構築

- ・良質堆肥生産研修会開催
- ・堆肥成分分析や発芽試験実施
- ・堆肥広域流通支援

モデル地域支援

- ・堆肥施用機械等の整備

② 飼料を通じた耕畜連携

飼料生産

実証試験実施

- ・講習会開催、実証展示ほ設置
- ・耕種農家への栽培体系の提案

モデル地域支援(令和8年度実施)

- ・飼料作物を生産する耕種農家を支援
- ・耕種農家が生産した飼料を活用する畜産農家を支援

③ エシカル農産物としてブランディングによる高付加価値化

- ・畜産農家と耕種農家の結び付け
→飼料や堆肥の供給条件等の調整



- ・エシカル農産物によるブランディング、高付加価値化
→ストーリーテリング、ターゲット市場の選定、価格設定、販売手法の検討
- ・エシカル農産物の消費者PRや試験販売

・環境負荷低減や地力向上の取組、農産物への価格転嫁を実現するエシカル消費を目指す

耕畜連携によるエシカル農産物生産の取組

子実トウモロコシは、家畜の飼料用に栽培したトウモロコシの穀実（子実）のみを収穫・利用します。残りの茎葉は、細断してほ場に還元し、緑肥として利用できます。



子実トウモロコシの収穫



収穫した穀実（子実）



収穫後に細断された茎葉

三浦市での試験栽培（2023年）

草種	品種	肥料（10a）			農薬
トウモロコシ	パイオニア93日 （サナテックシード）	基肥 追肥	高度化成（13-14-13） なし	154kg	ゲザノンゴールド アルファード液剤
ダイコン	福誉 （みかど）	基肥 追肥	マイルドキープP020 重焼燐 硫酸加里 化成肥料 NK2号	90kg 26kg 14kg 38kg	D-D剤 フェニックス顆粒水和剤 Zボルドー

草種	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トウモロコシ		○ 3/30播種				✕ 8/10収穫				
ダイコン							○ 9/12播種			✕ 12/15収穫

子実トウモロコシ



子実トウモロコシ



茎葉部の還元

部位	乾物収量 （kg/10a）
茎葉	1,242
子実	1,146
茎葉1,242kgを緑肥利用 できる	

ダイコン



全長 （cm）	根長 （cm）	根径 （cm）	全重 （g）	根重 （g）
71	38	33	1,518	1,354
センチウ被害度	へこみ	曲がり	横縞被害度	
0.0	0.0	0.1	31.3	

センチウ被害度と横縞被害度は指数